

Title	証券業における営業社員の離職の背景に関する一考察 - 営業社員と職場の人間関係 -
Sub Title	
Author	安藤孝(Andou, Takashi) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1979
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 安藤 孝
(山種証券株式会社)

主査 小林 規 威 教授
副査 石田 英 夫 教授

所属ゼミナール 古川 公 成 研

古川 公 成 助教授

証券業における営業社員の離職の背景に関する一考察 — 営業社員と職場の人間関係 —

我が国証券業界において、営業社員の離職率が高水準にあり、証券会社にとっては、これが重要な解決問題となっている。しかしながら、これに対しての有効な具対策が未だ提示されていないのが実情である。これは、離職者が離職を決意するに至る背景が十分に分析されていない事に起因すると思われる。

本稿の目的は、どのような原因が証券会社の営業社員の離職行動を誘発しているかについての分析を行う事により、離職問題解決への具体的政策の指針を導き出すことにある。

一般にセールスマン管理といえば多くの場合問題にされるのが管理機構に関するものである。管理機構が確立されていなければ、セールスマン管理も合理的には行なえない事はもちろんである。しかし商品管理や財務管理と異なり、その対象が人である以上、セールスマン管理の基本は人間関係にあるのではないかと思われる。

本稿においても、アンケートおよび面接調査の結果、証券会社営業社員の離職率を低下させる為には、職場における人間関係の改善につながる一連の対策が必要である、という結論が導かれた。